

特集1
special feature

青森まちづくり400年

青森のまちづくりが始まってから今年でちょうど400年を迎えます。弘前藩第2代藩主・津軽信枚のぶひらは1625(寛永2)年に幕府から津軽・江戸間の廻船就航の許可を得て、翌26(同3)年に青森町のまちづくりを始めました。まちの姿はどのように移り変わってきたのか、写真で振り返ります。

青森空襲

1945(昭和20)年7月28日夜、米軍が投下した焼夷弾で青森市中心街は焼き尽くされ、多くの尊い命が犠牲となった。焦土から復興が進み、以前の街並みに沿って市街地が再建された。



空襲後、古川跨線橋上空より(青森空襲を記録する会提供)



2023(令和5)年5月撮影(東奥日報社提供)



大正末期(青森県所蔵県史編さん資料)



1994(平成6)年(白石健二氏撮影、青森県所蔵県史編さん資料)



現在の5代目駅舎

青森駅

上の写真は、大正末期の「青森停車場」。中央の写真は4代目駅舎で、昭和～平成期に親しまれた。現在の5代目駅舎は2021(令和3)年3月に利用が始まり、駅ビルは商業フロアのほか、美術展示館、ホテルなどを備える。

青森港

江戸時代、海岸線に港湾施設はなく、明治期になっても上の写真のように「浜町棧橋」があるだけだった。築港が本格化したのは大正に入ってから。今ではクルーズ船が年40回以上寄港し、様々な国の観光客が降り立つ。



明治末期～大正初期(青森県所蔵県史編さん資料)



2025(令和7)年 青森港新中央埠頭に入港したクルーズ船「クイーン・エリザベス」

青森まちづくりQ&A



青森市民図書館歴史資料室
工藤 大輔 室長 に質問しました

青森の歴史はまだまだ分からないことだらけ。紐解き始めると非常に面白いです。若い人たちが歴史を知ること、自分の街を好きになってもらえるとうれしいです。

問 歴史資料室 ☎017-732-5271

Q. 江戸時代、青森でまちづくりをした理由は？

A. 江戸に米を送る「流通のための町」をつくるため。

青森町の役割は、弘前藩領の米を江戸へ送り出すことでした。町のなかには米を集積する蔵や、米を運び出すための水路が作られました。また、弘前藩庁は青森町に移住する人を各地から集めました。340年ほど前の「青森町絵図」を見ると、善知鳥神社の北側には「越前町」があり、北陸地方の越前国(現福井県)出身の人々が暮らしていたと推測されています。青森町に移住すると10年間年貢免除の「特典」もありました。

Q. 「青森」の地名の由来は？

A. 昔話に出てくる「冬でも青々と茂る小高い丘」から。

「むかしむかし、冬でも雪を払いのけて青々と茂る小高い丘があり、それを住民が『青森』と呼んでいた」という話が古くから地域に伝わっていました。このエピソードから、新しい町の名前には「青森」がいいのではないかと、家臣の森山弥七郎が津軽信枚に進言したと伝えられています。この「小高い丘」は現在の葭町小学校周辺だとみえています。

写真で見る今昔

西秀記市長メッセージ

みなとまちあおもりのこれまでとこれから

青森のまちづくりは400年の歴史を刻んできました。当初から計画的にまちを築いてこられた先人の皆様に感謝しつつ、その歩みを受け継ぎ、さらに魅力あるまちへと高め、次の世代へしっかりと引き継いでまいります。



1876(明治9)年(青森県所蔵県史編さん資料)

堤橋

左上の写真には、架け替えられたばかりの新しい橋が写る。左下の写真では、歩行者と自転車、車が別々の橋を渡っている。現在の橋は1983(昭和58)年完成で、長さ64.2メートル。



1955(昭和30)年頃(青森市民図書館歴史資料室所蔵)



現在の堤橋

新町通り

約340年前の町絵図にも「新町」の町名が登場する。上の写真は1957(昭和32)年の撮影。青森駅前から東へ延びる通りは現在、百貨店、飲食店、ホテルなどが建ち並ぶ「街の顔」。



1957(昭和32)年(青森市民図書館歴史資料室所蔵)



現在の新町通り



1988(昭和63)年 青函連絡船終航式(青森県所蔵県史編さん資料)



2016(平成28)年(東奥日報社提供)

青函連絡船

上の写真は1988(昭和63)年3月13日の終航式の様子。現在は北海道新幹線が青函をつなぐ。下の写真は2016(平成28)年3月26日に新青森駅を出発する北海道新幹線下り一番列車。

青森・まちづくり400年の歴史

- 1626 寛永3年** まちづくりの始まり
●前年に幕府から津軽・江戸間の廻船が許可されたことを受け、弘前藩庁が町づくり基本方針を提示
- 1671 寛文11年** ●青森屋敷(後の御飯屋=弘前藩主が来青した際の宿舎)が完成し、青森町の姿が整う
- 1871 明治4年** ●廃藩置県で青森県が誕生し、青森町が県庁所在地となる
- 1891 明治24年** ●日本鉄道の上野～青森間が全通
- 1898 明治31年** ●青森市制施行
- 1908 明治41年** ●青函連絡船就航
- 1915 大正4年** ●青森築港起工式
- 1924 大正13年** ●青森築港完了
- 1945 昭和20年** ●青森空襲で青函連絡船が壊滅、中心街は焦土に
- 1964 昭和39年** ●青森空港開港(翌年営業開始)
- 1968 昭和43年** ●東北本線全線の複線電化が完成
- 1986 昭和61年** ●アスパム開館
- 1987 昭和62年** ●青森新空港の暫定開港(90年に全面開港)
- 1988 昭和63年** ●青函連絡船廃止、青函トンネル開通
- 1992 平成4年** ●青森ベイブリッジが2車線で暫定開通(94年に4車線で全面開通)
- 2005 平成17年** ●青森市と浪岡町の合併により新青森市が誕生
- 2006 平成18年** ●青森市が中核市に移行
- 2010 平成22年** ●東北新幹線新青森駅開業
- 2016 平成28年** ●北海道新幹線新青森～新函館北斗間が開業
- 2021 令和3年** ●5代目となる現青森駅舎の利用開始
- 2026 令和8年** ●まちづくりの始まりから400年

Q. 江戸時代の青森町の道路が今も残っているって本当?

A. ほとんどそのまま残っている。

江戸時代の青森町は、概ね西端が現在の青森駅付近、南端が新町通りを含む駅前通り、東端が堤川という狭い区域でした。町絵図を見ると、碁盤の目のような道路は現在とほとんど同じ。「新町」と「安方」の二つの町名は、江戸時代から現在まで使われている名称です。町絵図には898世帯の名前が書かれており、当時の人口は5000人ほどと推測されます。

Q. 明治～大正時代、日本鉄道の上野～青森間全通と青函連絡船がもたらしたものは?

A. まちの中心が西側へ移動。駅と港がにぎわうようになった。

明治時代に日本鉄道の上野～青森間が全通し、農漁村部だった青森町の西側に青森駅が建てられました。その後青函連絡船が就航すると、鉄道と航路の乗り継ぎ場所には多くの人と物が集まりにぎわいました。江戸時代のまちの中心は米問屋などが建ち並んだ現在の本町付近でしたが、明治時代後期以降に西側の青森駅付近に中心部が移り、まちの構造が大きく変わりました。

Q. 昭和20年の青森空襲からどのように復興した?

A. 連絡船の復旧を優先。駅前に露店街ができ、活気が戻ってきた。

米軍の空襲で青函連絡船は壊滅し、青森市街地は焦土と化しました。戦時中、青函連絡船は北海道の石炭を本州に運ぶ重要な役割を担っており、連絡船をすぐに復旧させることが優先でした。終戦の年は記録的な大雪と冷害も重なり、青森の人たちは非常に苦労したと考えられます。終戦後、青森駅前などに露店街が開設され、昭和20年代半ば頃から再び活気が戻ってきました。まちはほぼ江戸時代からの町割りのまま再建されました。